

* シンガポールにおける マーケット調査

全輸協（岡山）

* 調査目的・背景

- 国産青果物の輸出先は台湾・香港の2カ国で大部分を占めている状況。
- ただし、この2カ国では国産果実の価格競争起きつつあり、新たな販路を模索しているところ。
- シンガポールは検疫条件も易しく、富裕層の割合が高いため、台湾・香港に次ぐ海外市場になり得るのかどうか、現地のニーズ等について調査した。

* シンガポール概要

- 人口：約561万人
- 1人あたりGDP：51,496ドル（日本：38,882ドル）
- 一世帯あたり家計所得100万円/月以上の富裕層：31%

《台湾・香港との比較》

	人口	一人あたりGDP	生鮮果実輸出額
台湾	2,350万人	22,495ドル	11,243百万円
香港	729万人	42,327ドル	5,217百万円
シンガポール	561万人	51,496ドル	150百万円

H28年輸出額	もも	ぶどう	りんご	なし	かき
台湾	288百万円	818百万円	9,789百万円	320百万円	8百万円
香港	868百万円	1,370百万円	2,388百万円	437百万円	105百万円
シンガポール	13百万円	61百万円	71百万円	3百万円	2百万円

⇒今回調査対象のぶどうの輸出額は、一番多い香港の5%に満たない。

* 調査内容①

- 日程：平成29年9月29日～10月3日
- 参加者：JA岡山西・JA全農おかやま各1名
- 調査品目：ぶどう
- 調査場所：シンガポール明治屋
- 調査項目：日本産果実の販売環境・評価等
- その他：現地業者に聞き取り調査



リャンコート外観。
明治屋はこの建物のB1にある。



明治屋入口



果実陳列棚

* 調査内容②

○調査対象品目：岡山県産ぶどう

ピオーネ（700g）－4,056円

シャインマスカット（700g）－10,816円

〃（350g）－2,264円

瀬戸ジャイアンツ（700g）－4,056円

アレキサンドリア（350g）－2,771円



○陳列されていたその他のぶどう

【日本産】

ナガノパープル－4,056円 ピオーネ－7,520円

シャインマスカット－3,211円 巨峰－1,859円

甲斐路－4,056円

【海外産】

アメリカ産赤系ぶどう－600円

アメリカ産青系ぶどう－500円



* 調査結果

【売行き動向】 ※来店客は富裕層中心で、約3割が日本人

- 糖度の高いシャインマスカットやピオーネが人気。
- 700gのシャインマスカット等、高価な商品の売れ行きは鈍かった。
- 瀬戸ジャイアンツはさっぱりとした甘みを好む消費者が一定数いることから売行きは好調であった。
- 種有り品種は好まれず、アレキサンドリアは苦戦した。

【店舗担当者からの評価】

- 日本産は食味・品質で海外産と比較して優れており、引き合いは強いが、価格が高すぎると売行きは鈍くなる傾向にある。
- 甘みの強いシャインマスカットやピオーネ、さっぱり感の強い瀬戸ジャイアンツはそれぞれ好む消費者がいるため、品種は絞らずに複数品目でPRする方が効果的。

* 総括・今後の方針

- 好まれるのは糖度の高いシャインマスカットやピオーネで、アレキサンドリア等の種有り品種は好まれない。
- この店舗で売行きの良い価格帯は5,000円未満であり、一部客層に対して高すぎる価格設定となっていた商品があった。
- 国産ぶどうは海外産の4～10倍の価格帯となっているが、現地の日本産果実に対する評価は非常に高いため、客層に応じた価格設定とすれば更なる拡大が見込める。
- 今後は、関係者間で規格等について協議し、拡大を目指す。